資治通鑑 第091巻

令和3年11月20日

【晉紀十三】　起屠維單閼，盡重光大荒落，凡三年。

■東晋、▲前燕（慕容氏）、続国訳漢文大成．経子史部 第5巻 307p

中宗元皇帝中太興二年（己卯，３１９年）

■［蘇峻は海から来奔す］春，二月，**劉遐**、**徐龕**は**周撫**を寒山（江蘇省徐海道銅山県の東南、現・徐州市銅山区）に撃ち，破りて之を斬る。初め，掖（戦国時代の夜邑、山東省膠東道掖県、現・煙台市萊州市）人の**蘇峻**は郷里の數千家を帥いて壘を結び以て自ら保ち，遠近は多く之に附く。**曹嶷**は其の強きを悪み，將に之を攻めんとし，**峻**は衆を帥いて海に浮かびて來奔す。**帝**は**峻**を以て鷹揚將軍と為し，**劉遐**を助けて**周撫**を討たしめ，功有り。詔して**遐**を以て臨淮太守と為し，**峻**をして淮陵（恵帝の元康七年臨淮を分け設置、安徽省淮泗道盱眙県、現・淮安市盱眙県）内史と為す。

後趙 漢［石勒は劉曜と決別し後趙を樹立］**石勒**は左長史の**王修**を遣わして捷を漢に獻じ，漢主の**曜**は兼司徒の**郭汜**を遣わして**勒**に太宰を授け、大將軍を領せしめ，進めて趙王を爵し，殊禮を加え，出でて警し入るに蹕（さきばらい）せしめ，**曹公**の漢を輔けるの故事の如くす。**王修**及び其の副の**劉茂**を拜して皆な將軍と為し，列侯に封じる。**修**の舍人の**曹平樂**は**修**に從いて粟邑（陝西省臨潼県東北34里、現・西安市臨潼区）に至り，(5-308p)因りて留まりて漢に仕え，**曜**に言って曰く、

「大司馬（石勒）は**修**等を遣わして來たりて，外には至誠を表し，内には大駕の強弱を覘（のぞ）きみ，其の覆命を俟ち，將に乘輿を襲わんとす。」

時に漢兵は實に疲弊し，**曜**は之を信じる。乃ち**汜**を追いて還らしめ，**修**を市に斬る。三月，**勒**は還りて襄國に至る。**劉茂**は逃げ歸り，**修**の死するの狀を言い。**勒**は大いに怒りて曰く、

「孤は**劉氏**に事え，人臣之職に於いて加有り矣。彼之基業は，皆な孤の為す所，今既に志を得て，還りて相い圖らんと欲す。趙王、趙帝，孤は自ら之と為らん，何ぞ彼を待つ邪！」

乃ち**曹平樂**の三族を誅す。

■［建康の南郊に祀る］**帝**は群臣をして郊祀を議せ令め，尚書令の**刁協**等は以て為す、

「宜しく洛に還るを須（ま）ちて乃ち之を修めるべし。」

司徒の**荀組**等は曰く、

「漢の**獻帝**は許に都し，即ち郊祀を行う。何ぞ必ずしも洛邑ならん！」

帝は之に從い，郊丘を建康城之巳の地（方向、東南）に立て。辛卯（５１日?），**帝**は親ら南郊に祀す。未だ北郊有らざるを以て，地祇を並せて之を合祭し，詔す、

「琅邪の**恭王**は宜しく皇考（先代を帝とする）を稱すべし。」

賀循は曰く、

「《禮》に，子は敢えて己の爵を以て父に加えず。」

乃ち止む。

■［塢主陳川は石勒に降る］初め，蓬陂（ほうひ）（陳留郡の浚儀県、河南省開封道開封県東南、尉氏県の東北、現・開封市尉氏県）の塢主（お）（民衆が塢壁を築いた自衛団）の**陳川**は自ら陳留太守と稱す。**祖逖**之**樊雅**を攻める也，**川**は其の將の**李頭**を遣わして之を助ける。**頭**は力戰して功有り，**逖**は厚く之を遇す。**頭**は毎に歎いて曰く、

「此の人を得て主と為せば，吾は死すとも恨む無し！」

川は之を聞き而して之を殺す。**頭**の黨の**馮寵**は其の衆を帥いて**逖**に降り，**川**は益々怒り，大いに豫州諸郡を掠め，**逖**は兵を遣わして撃ちて之を破る。**夏，四月**，**川**は**浚儀**を以て叛し，**石勒**に降る。

■［**徐龕は劉遐に反発し石勒に降る**］**周撫**之敗走する也，**徐龕**の部將の**於藥**は追いて之を斬り，朝廷の功を論じるに及び，而して**劉遐**は之に先だつ。**龕**は怒り，泰山を以て叛し，**石勒**に降り，自ら兗州刺史と稱す。

漢［**羊皇后は劉曜を丈夫とす、寵愛と政治関与**］漢主の**曜**は還り，（粟邑より）長安に都し，妃の**羊氏**を立てて**皇后**と為し，子の**熙**を皇太子と為し，子の**襲**を封じて長樂王と為し，**闡**を太原王と為し，**沖**を淮南王と為し，**敞**を齊王と為し，**高**を魯王と為し，**徽**を楚王と為す。諸々の宗室は皆な進めて郡王に封じる。**羊氏**は，即ち故の**惠帝**の后也。**曜**は嘗て之に問いて曰く、

「吾は司馬家の兒（惠帝）に何如？」

羊氏は曰く、

「**陛下**は開基之聖主なり，彼は亡國之暗夫なり，何ぞ並べて言う可きや！彼は貴き**帝王**と為り，一婦、一子及び身の三有る耳，曾ち庇う能わず。妾は爾の時に於いて，實に生を欲せず，意（こころ）に謂（おも）うに世間の男子は皆な然りと。巾櫛（手拭いと櫛、人の妻妾となる）を（陛下に）奉じてより已來（87 巻懐帝永嘉五年），始めて天下に自ら丈夫有るを知る耳！」

曜は甚だ之を寵し，頗ぶる國事に干預す。**(5-309p)**

■［**晉王保の自立、上邽を巡る張寔と陳安の攻防**］南陽王の**保**は自ら晉王を稱し，改元して建康とし，百官を置き，**張寔**を以て征西大將軍、開府儀同三司と為す。**陳安**は自ら秦州刺史と稱し，漢に降り，又た成に降る。上邽は大いに饑え，士衆は困迫し，**張春**は**保**を奉じて南安の祁山に之（ゆ）く。**寔**は**韓璞**を遣わして歩騎五千を帥いて之を救う。**陳安**は退きて綿諸（天水郡、甘粛省渭川道天水県の東、現・天水市）を保ち，**保**は上邽に歸る。未だ幾くもなくして，**保**は復た**安**の逼る所と為り，**寔**は其の將の**宋毅**を遣わして之を救わしめ，**安**は乃ち退く。

■［**益州刺史應詹の綱紀粛正の上疏**］江東は大いに饑え，百官に詔して各々封事を**上**（たてまつ）らしむ。益州刺史の**應詹**は上疏して曰く、

「元康以來，《經》を賤しみ道を尚（たっと）び，玄虛宏放（虛実奔放）を以て夷達（夷曠闊達）と為し，儒術清儉（清廉儉樸）を以て鄙俗（卑俗）と為す。宜しく儒官を崇奬して，以て俗化を新たにすべし。」

■［**祖逖は石虎に敗れ壽春に撤退**］**祖逖**は**陳川**を蓬關（蓬陂に同じ）に攻め，**石勒**は**石虎**を遣わして兵五萬を將いて之を救わしめ，浚儀に於いて戰い，**逖**の兵は敗れ，退きて梁國に屯す。**勒**は又た**桃豹**を遣わして兵を將いて蓬關に至らしめ，**逖**は退きて淮南（この場合は壽春、安徽省淮泗道壽県、現・淮南市寿県）に屯す。**虎**は**川**の部衆五千戸を襄國に徙し，**豹**を留めて**川**の故城を守らしむ。

後趙［**石勒は鮮卑・幽州を討つ**］**石勒**は**石虎**を遣わして鮮卑の**日六延**を朔方に撃ち，大いに之を破り，斬首は二萬級，俘虜は三萬餘人なり。**孔萇**（石勒十八騎 の一人である孔豚と同一人物か）は幽州の諸郡を攻め，悉く之を取る。**段匹磾**（鮮卑段部の大人）の士衆は饑え散じ，移りて上谷（上谷郡は沮陽県に治す、直隷省ロ北道懐来県、現・張家口市懐来県）を保たんと欲し，代王の**鬱律**は兵を勒して將に之を撃たんとし，**匹磾**は妻子を棄てて樂陵（樂陵郡は厭次県に治す、山東省済南道陽信県、現・浜州市陽信県）に奔り，**邵續**（魏郡安陽人。西晉末年官吏）に依る。

曹嶷［**青州の曹嶷は石勒と国境交渉**］**曹嶷**は遣使して**石勒**に賂し，河を以て境と為すを請い，**勒**は之を許

す。（曹嶷は東萊郡の人。青州で一大勢力を築き上げ、前趙・後趙・東晋と様々な国家に服属し 12 年割拠）

■［王敦と周訪の荊州を巡る争い］梁州刺史の**周訪**は**杜曾**を撃ち，大いに之を破る。**馬俊**等は**曾**を執り以て降り，**訪**は之を斬り，並せて荊州刺史の**第五猗**（杜曾に従うは 89 巻愍帝建興四年より）を獲り，武昌に送る。**訪**は**猗**が本中朝の署する所，加えるに時望有るを以て，**王敦**に白す、

「宜しく殺すべからず」

と，**敦**は聴かず而して之を斬る。初め，**敦**は**杜曾**の制し難きを患い，**訪**に謂って曰く、

「若し**曾**を擒にすれば，當に（功を）相い論じて荊州と為すべし。」

曾の死するに及びて而して**敦**は用いず。**王廙**は荊州に在り，多く**陶侃**の將佐を殺す。**皇甫方回**が**侃**の敬する所と為るを以て，其の己に詣らざるを責め，收めて之を斬る。士民は怨み怒り，上下は安ぜず。**帝**は之を聞き，**廙**を征して散騎常侍と為し，**周訪**を以て代わりて荊州刺史と為す。**王敦**は**訪**の威名を忌み，意に之を難しとす。從事中郎の**郭舒**（以前より荊州にありて劉弘・王澄に歴事す）は**敦**を說いて曰く、

「鄙州は荒弊すると雖も，乃ち武を用いる之國，以て人に假す可からず，宜しく自ら之を領し，**訪**を梁州と為せば足る矣。」

敦は之に從う。六月，丙子（７日），詔して**訪**に安南將軍を加え，餘は故の如し。**訪**は大いに怒り，**敦**は手書して譬解（論解）し，**(5-310p)** 並せて玉環、玉碗を遣（おく）りて以て厚意を申す。**訪**は之を地に抵げ，曰く、

「吾は豈に賈豎（小商人）にして，寶を以て悅ばす可けん邪！」

訪は襄陽に在り，農を務め兵を訓（おし）え，陰かに**敦**を圖る之志有り，守宰は缺ける有れば輒ち補い，然る後に言上す。**敦**は之を患え，而して制する能わず。

■**魏該**は胡寇の逼る所と為り，宜陽（弘農郡の県、河南省河洛道宜陽県、現・洛陽市宜陽県）より衆を帥いて南に新野（義陽郡の県、河南省開封道新野県、現・南陽市新野県）に遷り，**周訪**を助けて**杜曾**を討ちて功有り，順陽太守に拜す。

■**趙固**は死し，**郭誦**は留まりて陽翟（河南郡の県、河南省開封道禹県治、現・河南省許昌市禹州市）に屯し，**石生**は屢々之を攻め，克つ能わず。

前趙［劉曜は国号を趙と変更］漢主の**曜**は宗廟、社稷、南北郊を長安に立て，詔して曰く、

「吾之先（祖）は，北方に興こる。**光文**（85 巻恵帝永嘉元年）は漢の宗廟を立て以て民望に從う。今宜しく國號を改め，單于を以て祖と為すべし。亟かに議して以て聞くべし！」

群臣は奏す、

「**光文**は始め盧奴伯（晉の成都王穎娃は劉淵を封じる）に封じられ，**陛下**は又た中山に王たり。中山は，趙の分也，國號を改めて趙と為すを請う。」

之に從う。**冒頓**を以て天に配し，**光文**を上帝に配す。

■［徐龕討伐に羊鑒を起用］**徐龕**は濟（山東省の済南）、岱（泰山）を寇掠し，東莞（郡、山東省済寧道莒県、現・日照市莒県）を破る。**帝**は將帥の以て**龕**を討つ可き者を**王導**に問い，**導**は以て為す、

「**太子**の左衛率の太山（続は泰山）の**羊鑒**は，**龕**之州裡の冠族なり，必ず能く之を制せん。」

鑒は深く辭し，

「才は將帥に非らず」

と，**郗鑒**は亦た表す、

「**鑒**は才に非ず，使う可からず」

導は從わず。秋，八月，**羊鑒**を以て征虜將軍、征討都督と為し，徐州刺史の**蔡豹**、臨淮太守の**劉遐**、鮮卑

の**段文鴦**（兄の段匹磾に従い厭次にあり）等を督して之を討たしむ。

【石勒の後趙成立。前趙と並び立つ】

後趙［石勒は趙王に即位、後趙成立］冬，**石勒**の左、右長史の**張敬**、**張賓**、左、右司馬の**張屈六**、**程遐**等は，**勒**に尊號を稱するを勸め，**勒**は許さず。十一月，將佐等は復た**勒**に請う、

「大將軍、大單于を稱し、冀州牧、趙王を領し，漢の**昭烈**（劉備の諡）が蜀に在り、**魏武**が鄴に在るの故事に依り，河內等二十四郡を以て趙國と為し，太守は皆な內史と為し，《禹貢》（『尚書』の一篇で、中国 地理の書、紀元前の中国を九州に分けて記述）に准じ，冀州之境を復し，大單于を以て百蠻を鎮撫し，幷、朔、司の三州を罷め，通じて部司を置き以て之を監すべし」

勒は之を許す。戊寅（４１日?），趙王に即位し，大赦し，春秋の時の列國に依りて元年を稱す。

後趙［後趙の律令見直し、政治体制］初め，**勒**は世亂れて，律令は煩わしく多きを以て，法曹令史の**貫志**に命じて，其の要を採集させ，作《辛亥の制》五千文を作らしむ。施行して十餘年，乃ち律令を用いる。理曹參軍の上黨の**續鹹**を以て律學祭酒（石勒は經学祭酒・史學祭酒・門臣祭酒も置く）と為す。鹹な用法を用いること詳平にして，國人は之を稱す。中壘將軍（後趙創設の官職）の**支雄**、游擊將軍の**王陽**を以て門臣祭酒を領し，專ら胡人の辭訟を主（つかさど）らしむ，重ねて胡人に禁じて，衣冠華族（衣冠の士と中華の人）を陵侮するを得ざらしめ，胡を號して國人と為す。(5-311p) 遣使して州郡を循行し，農桑を勸課せしむ。朝會は始めて天子の禮樂を用い、衣冠、儀物，從容として觀る可し矣。**張賓**に大執法を加え，專ら朝政を總べしむ。**石虎**を以て單于元輔、都督禁衛諸軍事と為し，尋いで驃騎將軍、侍中、開府を加え，爵の中山公を賜う。自餘の群臣は，位を授けて進爵すること各々差有り。**張賓**は任遇優顯にして，群臣は及ぶ莫し。而して廉虛にして敬慎し，懷を開きて士に下り，阿私を屏絕し，身を以て物を帥い，入りては則ち規を盡くし，出でては則ち美を歸す。**勒**は甚だ之を重んじ，朝する每に，常に之が為に容貌を正しくし，辭令を簡にし，呼びて右侯と曰い而して敢えて名いわず。

■十二月，乙亥（４日），大赦す。

【慕容廆の四面楚歌】

▲［崔毖は高句麗・段・宇文と慕容廆領土分割を策す］平州刺史の**崔毖**（魏の崔琰の曾孫）は，自ら中州の人望なると以（おも）い，遼東を鎮し，而して士民の多くは**慕容廆**に歸し，心は平かならず。數々遣使して之を招くも，皆な至らず，意（おもい）は**廆**が之を拘留するとし，乃ち陰かに高句麗、段氏、宇文氏を說き，共に之を攻め使めて，**廆**を滅ぼして，其の地を分けんと約す。**毖**の親しむ所の勃海の**高瞻**は力して諫め，**毖**は從わず。

▲［慕容廆は三国離間を待つ戦略］三國は兵を合わせて**廆**を伐つ。（廆の）諸將は之を擊たんと請い，**廆**は曰く、

「彼は**崔毖**の誘う所と為り，一切（晉書前燕載記には一時）之利を邀（もと）めんと欲す。軍勢は初めて合し，其の鋒は甚だ銳く，與に戰う可からず，當に固く守りて以て之を挫くべし。彼は烏合し而して來り，既に統壹無し，相い歸服する莫し，久しく必ず攜貳（離心、離間）せん，一には則ち吾と**毖**と詐りて而して之を覆えさんと疑い，二には則ち三國は自ら相い猜い忌まん。其の人情の離貳を待ち，然る後に之を擊てば，之を破るは必ずなり矣。」

▲［宇文大人悉獨官の孤軍奮闘］三國は進みて棘城を攻め，**廆**は閉門して自ら守り，遣使して獨り牛酒を以て宇文氏を犒（ねぎら）う。二國は宇文氏と**廆**に謀有るを疑い，各々兵を引いて歸る。宇文の大人の**悉獨官**は曰

く、
「二國は歸ると雖も，吾は當に獨り之を取らん。」
宇文氏の士卒は數十萬，營を連らねること四十里。**廆**は其の子の**翰**を徒河（愍帝建興元年より鎮す、現・遼寧省錦州市）より召さ使む。**翰**は遣使して**廆**に白して曰く、
「**悉獨官**は國を擧げて寇を為し，彼は衆くして我は寡なし，計を以て破り易し，力を以て勝ち難し。今城中之衆は，以て寇を禦ぐに足り，**翰**は請う奇兵を外に為し，其の間を伺い而して之を擊ち，內外俱に奮い，彼をして震駭し備える所を知らざら使めば，之を破ること必らず矣。今兵を幷せて一と為し，彼は意を專らにして城を攻めるを得，復た它の虞り無し，策之得たる者に非ざる也。且つ衆に示すに怯を以てし，恐らくは士氣は戰わずして先ず沮まん矣。」
廆は猶ほ之を疑う。遼東の**韓壽**は**廆**に言って曰く、
「**悉獨官**は憑陵（勢いに任せて迫りしのぐ）之志有り，將は驕り卒は惰なり，軍は堅密ならず，若し奇兵が卒に起こり，其の備え無きを掎（後より牽く）けば，必ず破る之策也。」
廆は乃ち**翰**に徒河に留まるを聽す。
▲<u>［悉獨官は慕容廆に大敗す］</u>**悉獨官**は之を聞き，曰く、
「**翰**は素より驍果に名あり，今城に入らず，或は能く患いを為さん，當に先に之を取れば，城は憂うるに足りず。」
乃ち數千騎を分遣して**翰**を襲う。**翰**は之を知り，(5-312p) 詐りて**段氏**の使者と為り，道に逆えて曰く、
「**慕容翰**は久しく吾が患いと為り，聞きて當に之を擊つべくして，吾は已に兵を嚴にして相い待つ，宜しく速やかに進むべき也！」
使者は既に去り，**翰**は即ち城を出，伏（伏兵）を設けて以て之を待つ。**宇文氏**之騎は使者を見，大いに喜びて馳せて行き，復た備えを設けず，進みて伏の中に入る。**翰**は奮擊し，盡く之を獲り，勝ちに乘りて徑ちに進み，間使を遣わして**廆**に語る、
「兵を出して大いに戰うべし。」
廆は其の子の**皝**と長史の**裴嶷**をして精銳を將いて前鋒と為さ使め，自ら大兵を將いて之に繼ぐ。**悉獨官**は初め備えを設けず，**廆**の至るを聞き，驚き，衆を悉くして出でて戰う。前鋒は始めて交わり，**翰**は千騎を將いて旁より直ちに其の營に入り，火を縱ちて之を焚く。衆は皆な惶擾し，為す所を知らず。遂に大敗し，**悉獨官**は僅かに身を以て免る。**廆**は盡く其の衆を俘とし，皇帝の玉璽三紐（宇文大人晉回が出で獵して得たもの）を獲る。
▲<u>［崔毖は高句麗に逃亡、慕容仁は遼東に鎮］</u>**崔毖**は之を聞き，懼れ，其の兄の子の**燾**をして棘城に詣りて僞りて賀さ使む。會々三國の使者も亦た至り，和を請い，曰く、
「我が本意に非ず，**崔平州**が我に教える耳。」
廆は以て**燾**に示し，之に臨むに兵を以てし，**燾**は懼れ，首服す。**廆**は乃ち**燾**を遣り歸して**毖**に謂って曰く、
「降る者は上策なり，走る者は下策也。」
兵を引いて之に隨う。**毖**は數十騎と家を棄てて高句麗に奔り，其の衆は悉く**廆**に降る。<u>**廆**は其の子の**仁**を以て征虜將軍と為し，遼東に鎮ぜしめ，</u>官府、市裡は，案堵すること故の如し。
▲<u>［高句麗将を捕え、戦後処理］</u>高句麗の將の**如奴子**は河城（棘城付近）に據り，**廆**は將軍の**張統**を遣わして掩擊し，之を擒とし，其の衆千餘家を俘とす。**崔燾**、**高瞻**、**韓恆**、**石琮**を以て棘城に歸り，待つに客の禮を以てす。**恆**は，安平の人**琮**は，**鑒**（石鑒、武帝・惠帝に事える）之孫也。**廆**は**高瞻**を以て將軍と為し，**瞻**は

疾と稱して就かず，**廆**は數々臨みて之を候い，其の心を撫して曰く、
「君之疾は此に在り，它に在らざる也。今晉室は喪亂し，孤は諸君と共に世の難を清め，帝室を翼戴せんと欲す。君は中州の望族（名望ある一族）なり，宜しく斯の願いを同じくせん，奈何ぞ華、夷之異なりるを以て，介然（堅く移らない貌）として之を疏んじる哉！夫れ功を立て事を立てるは，惟だ志略何如を問う耳，華、夷は何ぞ問うに足りん乎！」
瞻は猶ほ起たず，**廆**は頗る不平なり。龍驤（慕容廆は龍驤将軍）の主簿の**宋該**は，**瞻**と隙有り，**廆**に之を除くを勸め，**廆**は從わず。**瞻**は以て憂卒す。

■［**鞠彭・鄭林の東萊は慕容廆に帰す**］初め，**鞠羨**は既に死し（86 巻懐帝永嘉元年に見える），**苟晞**は復た**羨**の子の**彭**を以て東萊太守と為す。會々**曹嶷**は青州を徇え（87 巻永嘉三年に見える），**彭**と相い攻める。**嶷**の兵は強しと雖も，郡人は皆な**彭**の為に死戰し，**嶷**は克つ能わず。之久しく，**彭**は歎じて曰く、
「今天下は大亂し，強者は雄と為る。**曹**も亦た鄉里（鞠彭も曹嶷も齊の人）なり，天の相ける所為り，苟くも依憑す可く，即ち民の主と為らん，何ぞ必ずしも之と力爭し，百姓をして肝腦地に塗ら使めんや！吾が此を去れば，則ち禍いは自ら息まん矣。」
郡人は以て不可と為し，爭いて**嶷**を拒ぐ之策を獻じ，**(5-313p) 彭**は一に用いる所無し，鄉里（嶷、彭は斉の人）の千餘家と海に浮かびて**崔毖**に歸す。北海の**鄭林**は東萊に客たり，**彭**、**嶷**之相い攻めるや，**林**は情は彼此無し。**嶷**は之を賢として，敢えて侵掠せず，**彭**は之と俱に去る。遼東に至る比おい，**毖**は已に敗れ，乃ち**慕容廆**に歸す。**廆**は**彭**を以て龍驤の軍事に參ぜしむ。**鄭林**に車牛粟帛を遺る，皆な受けず，躬ら野に耕す。
▲［**慕容廆は東晋に捷を獻じる**］**宋該**は**廆**に江東（東晋）に捷を獻じるを勸め，**廆**は**該**をして表を為さ使め，**裴嶷**は之を奉じ，得る所の三璽を並せて建康に詣りて之を獻じる。

【慕容廆は高句麗を従わせる】

高句麗▲［**高句麗は慕容氏に会盟**］高句麗は數々遼東を寇し，**廆**は**慕容翰**、**慕容仁**を遣わして之を伐たしむ。高句麗王の**乙弗利**（美川王、?～331、在位 300-331、313 年楽浪郡を滅ぼす）は逆え來たりて盟を求め，**翰**、**仁**は乃ち還る。

前趙［**蒲洪は趙に降る**］是の歳，**蒲洪**（284-350、略陽郡臨渭県出身で氐族の盟主。前秦の苻健や苻雄の父である。元来は蒲姓であったが、讖文に「草付応王」とあったことにより苻姓に改めた）は趙に降り，趙主の**曜**は**洪**を以て率義侯と為す。
■［**劉曜は屠各の路松多を撃つ**］屠各の**路松多**は兵を新平、扶風に起こし以て晉王の**保**に附き，**保**は其の將の**楊曼**、**王連**をして陳倉（陝西省關中道宝鶏県の東、現・宝鶏市陳倉区）に據ら使め，**張顗**、**周庸**は陰密（甘粛省涇原道涇原道靈臺県、現・平涼市靈台県）に據り，**路松多**は草壁（陝西省關中道舊邠州内、豳州を改名、現・咸陽市北部）に據り，秦隴の氐、羌は多く之に應ず。趙主の**曜**は諸將を遣わして之を攻め，克たず。**曜**は自ら將して之を擊つ。

中宗元皇帝中太興三年（庚辰，３２０年）

前趙［**劉曜は陳倉・草壁・陰密を抜く**］春，正月，**曜**は陳倉を攻め，**王連**は戰死し，**楊曼**は南氐（氐種の陳倉南に居る者）に奔る。**曜**は進みて草壁を抜き，**路松多**は隴城に奔る。又た陰密を抜く。晉王の**保**は懼れ，桑城（甘粛省蘭山道舊蘭州府内、現・蘭州市）に遷る。**曜**は長安に還り，**劉雅**を以て大司徒と為す。
前涼**張春**は晉王の**保**を奉じて涼州に奔らんと謀り，**張寔**は其の將の**陰監**を遣わして兵を將いて之を迎え

しむ，翼衛（側面支援）すると聲言し，其の實は之を拒む。

【石勒は華北を席巻】

段氏［段末柸と石虎は段匹磾と邵續を攻める］**段末柸**は**段匹磾**を攻め，之を破る。**匹磾**は**邵續**に謂って曰く、

「吾は本より夷狄にして，義を慕うを以て家を破る。君は久要（旧約）を忘れず，相い與に共に**末柸**を撃たんと請う。」

續は之を許す。遂に相い與に追いて**末杯**を撃ち，大いに之を破る。**匹磾**は弟の**文鴦**と薊（匹磾は邵續に奔りて石氏に薊を取られていた）を攻める。後趙王の**勒**は**續**の勢いの孤なるを知り，中山公の**虎**を遣わして兵を將いて厭次を圍み，**孫萇**は**續**の別營十一を攻め，皆な之を下す。二月，**續**は自ら出でて**虎**を撃ち，**虎**は騎を伏せて其の後を斷ち，遂に**續**を執り，其の城を降ら使めんとす。**續**は兄の子の**竺**等を呼んで謂って曰く、

「吾が志は國に報いんと欲するも，不幸にして此に至る。汝等は努力して**匹磾**を奉じて主と為し，貳心有る勿かれ！」

匹磾は薊より還り，未だ厭次に至らず，**續**が已に沒すを聞き，衆は懼れ而して散じ，復た**虎**の遮ぎる所と為る。**文鴦**は親ら兵數百を以て力戰し，始めて城に入るを得，**續**の子の**緝**、兄の子の**存**、**竺**等と城を嬰して固く守る。**虎**は**續**を襄國に送り，**勒**は以て忠と為し，釋し而して之を禮し，以て從事中郎と為す。因りて下令す、

「今より敵に克ち，士人を獲れば，擅に殺すを得る毋かれ，必ず之の生を致せよ。」

■［東晉は邵續を救援せず］吏部郎の**劉胤**（劉胤は續の遣わす者、89 巻愍帝建興二年）は**續**の攻め被れるを聞き，**帝**に言って曰く、

「北方の籓鎮は盡きたり矣，(5-314p) 惟だ**邵續**を餘す而して已む。如し復た**石虎**の滅ぼす所と為ら使めば，義士之心に孤き，本に歸る之路を阻む。愚は謂うに宜しく兵を發して之を救うべし。」

帝は從う能わず。**續**の已に沒するを聞き，乃ち下詔して**續**の位任を以て其の子の**緝**に授ける。

前趙 後趙■［趙將は後趙、次に東晉李矩に降り洛陽は空］趙將の**尹安**、**宋始**、**宋恕**、**趙慎**の四軍は洛陽に屯し，叛き，後趙に降る。後趙の將の**石生**は兵を引いて之に赴く。**安**等は復た叛し，司州刺史の**李矩**に降る。**矩**は潁川太守の**郭默**をして兵を將いて洛に入ら使む。**石生**は**宋始**の一軍を虜とし，北に河を渡る。是に於いて河南之民は皆な相い帥いて**矩**に歸し，洛陽は遂に空なり。

■［慕容廆の使者裴嶷の気骨］三月，**裴嶷**は建康に至り，盛んに**慕容廆**之威德，賢俊皆な之が用を為すと稱し，朝廷は始めて（今迄蕃夷を以てす）之を重んじる。**帝**は**嶷**に謂って曰く、

「卿は中朝の名臣なり，當に江東に留まるべし，**朕**は別に龍驤（將軍、慕容廆）に詔して卿の家屬を送らしめん。」

嶷は曰く、

「臣は少くして國恩（西晉の中書侍郎給事黄門郎）を蒙り，省闥（省庁禁中）に出入し，若し復た輦轂（天子の乘物）を奉じるを得れば，臣之至榮なり。但だ以うに舊京は淪沒（さざ波に沈む）し，山陵は穿毀し，名臣宿將と雖も，能く雪恥す莫く，獨り**慕容龍驤**は忠を王室に竭し，凶逆を除かんと志し，故に臣をして萬里誠を歸せ使む。今臣は來り而して返さざれば，必ず朝廷は其の僻陋（都を遠く離れた僻地）なるを以て而して之を棄てると謂い，其の義に向かう之心に孤き，賊を討つに懈體（晉書載記には懈怠）せ使めん，此れ臣之甚だ惜しむ所なり，是を以て敢えて私に徇い（残留するは私欲）而して公（慕容廆を助けるは公）を忘れざる也。」

帝は曰く、
「卿の言は是(ぜ)也。」
乃ち遣使して嶷に隨わしめ廆を安北將軍、平州刺史に拜す。
■閏月（三月閏、元嘉暦では四月），周顗を以て尚書左僕射と為す。

【司馬保勢力の滅亡】

■［晉王司馬保の滅亡、陳安は司馬瞻を討伐］晉王の保は將の張春、楊次は別將の楊韜と協せず，保に之を誅するを勸め，且つ陳安を擊たんと請う。保は皆な從わず。夏，五月（元嘉暦では六月），春，次は保を幽し，之を殺す。保の體は肥大にして，重さは八百斤，睡るを喜び，讀書を好み，而るに闇弱にして斷（決斷力）無く，故に難に及ぶ。保は子無く，張春は宗室の子の瞻を立てて世子と為し，大將軍を稱す。保の衆は散り，涼州に奔る者は萬餘人。陳安は趙主の曜に表し，瞻等を討たんと請う。曜は安を以て大將軍と為し，瞻を擊ち，之を殺す。張春は枹罕（甘肅省蘭山道導河県治、現・臨夏回族自治州臨夏市）に奔る。安は楊次を執り，保の柩の前に於いて之を斬り，因りて以て保を祭る。安は天子の禮を以て保を上邽に葬し，謚して元王と曰う。

■［徐龕の毀誉褒貶に振り回される東晋・後趙］羊鑒は徐龕を討ち，兵を下邳に頓し，敢えて前まず。蔡豹は龕を檀丘（魯国卞県の東南、山東省済寧道旧交州府内、現・済寧市泗水県卞橋鎮）に敗り，龕は救いを後趙に求める。後趙王の勒は其の將の王伏都を遣わして之を救わしめ，又た張敬をして兵を將いて之が後繼と為さ使む。勒は邀求する所多く，而して伏都は淫暴にして，龕は之を患うる。張敬は東平に至り，（5-315p）龕は其の己を襲わんと疑い，乃ち伏都等三百餘人を斬り，復た來たりて降を請う。勒は大いに怒り，張敬に命じて險に據りて以て之を守らしむ。帝も亦た龕の反覆を惡み，其の降るを受けず，鑒、豹に敕して時を以て進み討たしむ。鑒は猶ほ疑い憚りて進まず，尚書令の刁協は鑒を劾奏し，死を免れて除名し，蔡豹を以て代わりて其の兵を領せしむ。王導は擧げる所人を失うを以て，自ら貶しめるを乞うも，帝は許さず。

後趙［孔萇は段文鴦に敗れる］六月（元嘉暦では七月），後趙の孔萇は段匹磾を攻め，勝ちを恃み而して備えを設けず，段文鴦は襲擊（夜襲）して，大いに之を破る。

前涼［張寔は暗殺され張茂立つ］京兆人の劉弘は客して涼州の天梯山に居り，妖術を以て衆を惑わし，道を受けて從う者は千餘人，西平の元公（張寔の諡）の張寔の左右は皆な之に事える。帳下の閻涉、牙門の趙卬は，皆な弘の鄉人なり，弘は之に謂って曰く、
「天は我に神璽を與え，應に涼州に王たるべし。」
涉、卬は之を信じ，密かに寔の左右十餘人と寔を殺し，弘を奉じて主と為さんと謀る。寔の弟の茂は其の謀を知り，弘を誅せんと請う。寔は牙門の將の史初をして之を收めんとせ令め，未だ至らず，涉等は刃を懷にし而して入り，寔を外寢に殺す。弘は史初の至るを見，謂って曰く、
「使君は已に死す，我を殺すとも何をか為さん！」
初は怒り，其の舌を截(き)り而して之を囚え，姑臧の市に轘(かん)（車裂きの刑）し，其の黨與數百人を誅す。左司馬の陰元等は寔の子の駿が尚ほ幼なきを以て，張茂を推して涼州刺史、西平公と為し，其の境內を赦し，駿を以て撫軍將軍と為す。

前趙［巴酋の反乱と遊子遠の諫争］丙辰（２３日），趙將の解虎及び長水校尉の尹車は反を謀り，巴の酋の句徐、庫彭等と相い結ぶ。事は覺われ，虎、車は皆な伏して誅せらる。趙主の曜は徐、彭等五十餘人を阿房（秦の阿房宮の跡）に囚え，將に之を殺さんとす。光祿大夫の遊子遠は諫めて曰く、

「**聖王**は刑を用いて，惟だ元惡を誅して而して已む，多く殺すは宜しからず。」
之を爭うに，叩頭流血す。**曜**は怒り，以て逆を助けると為し而して之を囚える。盡く**徐**、**彭**等を殺して，諸を市に屍すこと十日，乃ち水に投げる。是に於いて巴衆は盡く反し，巴酋の**句渠知**を推して主と為し，自ら大秦と稱し，改元して平趙と曰う。四山の氐、羌、巴、羯の之に應じる之者は三十餘萬，關中は大いに亂れ，城門は晝もまた閉まる。**子遠**は又た獄中より上表して諫爭し，**曜**は手ずから其の表を毀りて曰く、
「大荔（戎の種落の名前）の奴は，命の須臾に在るを憂えず，猶ほ敢えて此くの如し，死の晩きを嫌う邪！」
左右を叱して速かに之を殺さしむ。中山王の**雅**、**郭汜**、**朱紀**、**呼延晏**等は諫めて曰く、
「**子遠**は幽囚され，禍いは測られざるに在りて，猶ほ諫爭を忘れず，忠之至れる也。**陛下**は縦え用いる能わずとも，奈何して之を殺すや！若し**子遠**が朝に誅せられれば，臣等も亦た當に夕べに死せん，以て陛下之過ちを彰らかにして，天下は將に皆な**陛下**を捨てて而して去り，**陛下**は誰と與に居る乎！」
曜は意解り，乃ち之を赦す。
前趙［前趙は遊子遠を都督雍秦州に］**曜**は内外に敕して戒嚴し，將に自ら**渠知**を討たんとす。**子遠**は又た諫めて曰く、
「**陛下**は誠に能く臣の策を用いれば，一月にして定まる可し，大駕は必ずしも親征せず也。」
曜は曰く、
「卿は試みに之を言う。」(5-316p)
子遠は曰く、
「彼は大志有りて，非望（帝王の事は常人の望みと違う）を圖らんと欲するに非ざる也，直だ**陛下**の威刑を畏れ，死を逃れんと欲する耳。**陛下**が廓然（わだかまり無く）として大赦し，之と更に始めるに若くは莫し。應に前日**虎**、**車**等の事に坐し，其の家の老弱の奚官に沒入する者は，皆な之を縦ち遣り，之をして自ら相い招き引か使め，其の業に復するを聽す。彼は既に生きる路を得れば，何ぞ降らざるを為すや！若し其の中自ら罪の重きを知り，屯結（集結）して散ぜざる者は，願はくは臣に弱兵五千を假せば，必ず**陛下**の為に之を梟せん。然らざれば，今反する者は山を彌り谷を被い，天威を以て之に臨むと雖も，恐らくは歳月に除く可くに非らざる也。」
曜は大いに悦び，即日大赦し，**子遠**を以て車騎大將軍、開府儀同三司、都督雍、秦征討諸軍事と為す。
前趙［子遠は虚除權渠を下して懐柔］**子遠**は雍城に屯し，降る者は十餘萬。移りて安定に軍し，反く者は皆な降る。惟だ**句氏**の宗黨五千餘家は陰密（現・平涼市靈台県）を保ち，進攻し，之を滅ぼし，遂に兵を引いて隴右を巡る。是より先に氐、羌の十餘萬落は險に據りて服さず，其の酋の**虚除權渠**は自ら秦王と號す。**子遠**は進みて其の壁に造り，**權渠**は兵を出して之を拒み，五戰して皆な敗れる。**權渠**は降らんと欲し，其の子の**伊餘**は衆に大言して曰く、
「往者に**劉曜**は自ら來たるも，猶ほ我を若何ともする無し，況んや此の偏師をや，何の降ると謂う也！」
勁卒五萬を帥いて，晨に**子遠**の壘門を壓える。諸將は之を擊たんと欲し，**子遠**は曰く、
「**伊餘**は勇悍にして，當に今は敵無し，將いる所之兵は，復た我より精（精鋭）なり。又た其の父は新たに敗れ，怒氣は方に盛んにして，其の鋒は當たる可からざる也，之を緩くして，氣をして竭き使め而して後に之を擊つに如かず。」
乃ち壁を堅くして戰わず。**伊餘**は驕れる色有り，**子遠**は其の備え無きを伺い，夜，兵を勒して蓐食（旅立つ時などに、朝早く寝床で食事）して，旦に，大風ふき塵昏きに値い，**子遠**は衆を悉くして出でて之を掩い，**伊**

餘を生け擒りにし，盡く其の衆を俘とする。**權渠**は大いに懼れ，發（髪）を被り、面を傷（夥の字の女が刀に代る文字）つけ降を請う。**子遠**は**曜**に啟して，**權渠**を以て征西將軍、西戎公と為し，**伊餘**兄弟及び其の部落二十餘萬口を長安に分けて徙す。**曜**は**子遠**を以て大司徒と為し、尚書事を錄せしむ。

前趙［劉曜は大宮殿工事］**曜**は太學を立て，民之神志を選びて教える可き者は千五百人，儒臣を擇びて以て之を教えしむ。酆明觀及び西宮を作り，陵霄台を滻池（上林苑中に在り）に起こす，又た霸陵の西南に於いて壽陵を營む。侍中の**喬豫**、**和苞**は上疏して諫めて，以て為す、

「衛の**文公**は亂亡之後を承け，用を節し民を愛し，宮室を營建し，其の時制を得，故に能く**康叔**之業を興し，九百（年）之祚を延べる。前に詔書を奉じて酆明觀を營み，市道の細民は鹹な其の奢を譏りて曰く、『一觀之功を以て，涼州（張氏の前涼）を平らげるに足りん矣！』。今又た阿房に擬して而して西宮を建て，瓊台に法り而して陵霄を起さんと欲す，其の勞費為るは，酆明に億萬す。若し以て軍旅に資せば，乃ち吳（東晉）、蜀（李特）を兼ね而して齊（曹嶷）、魏（石勒）を壹にす可し矣！ (5-317p) 又た聞くに壽陵を營建し，周圍は四里，深さは三十五丈，銅を以て槨と為し，飾るに黃金を以てす。功費は此くの若く，殆んど國內之能く辦ずる所に非ざる也。秦の始皇は下に三泉を鋸（金属を溶かして隙間を塞ぐ、水銀の流れる地下宮殿の事か）し，土未だ干かず而して發毀す。古より亡びざる之國、掘られざる之墓無し，故に聖王之儉葬は，乃ち深遠之慮り也。**陛下**は奈何ぞ中興之日（靳準の亂を平定し自ら立つ事）に於いて，而も亡國之事を踵がん乎！」

曜は下詔して曰く、

「二侍中は懇懇として古人之風有り，社稷之臣と謂う可し矣。其れ悉く宮室の諸役を罷め，壽陵の制度は，一に霸陵之法に遵じん。**豫**を安昌子に，**苞**を平輿子に封じ，並びに諫議大夫を領せしめん。仍って天下に佈告し，區區之朝の，其の過ちを聞かんと欲するを知ら使む也。」

又た酆水囿を省き以て貧民に與える。

【祖逖は国境線に人望有り】

■後趙［祖逖は後趙を撃退］**祖逖**の將の**韓潛**は後趙の將の**桃豹**と分かちて陳川の故城に據り，**豹**は西台に居り，**潛**は東台に居り，**豹**は南門より，**潛**は東門より，出入して相い守ること四旬にして，**逖**は布囊を以て土を盛りて米の狀の如し，千餘人をして運びて台に上ら使めて，又た數人をして米を擔いて，道に息ま使む。**豹**の兵は之を逐い，擔を棄て而して走る。**豹**の兵は久しく饑え，米を得て，以為らく**逖**の士衆は豐飽すと，益々懼れる。後趙の將の**劉夜堂**は驢千頭を以て糧を運びて**豹**に饋り，**逖**は**韓潛**及び別將の**馮鐵**をして汴水に邀擊せ使め，盡く之を獲る。**豹**は宵に遁れ，東燕（陳留郡の県、河南省開封道鹿邑県の境、現・周口市鹿邑県）城に屯し，**逖**は**潛**をして進みて封丘（陳留郡の県、河南省河北道封丘県、現・新郷市封丘県）に屯し以て之に逼ら使む。**馮鐵**は二台に據り，**逖**は雍丘（陳留郡の県河南省開封道杞県、現・開封市杞県）に鎮し，數々兵を遣わして後趙の兵を邀擊し，後趙の鎮戍の**逖**に歸する者は甚だ多く，境土は漸く蹙まる。

■［祖逖は境界の塢主に両属を認める］是より先，**趙固**、**上官巳**、**李矩**、**郭默**は，互いに相い攻擊し，**逖**は馳せて之を和解せ使め，示すに禍福を以てし，遂に皆な**逖**の節度を受ける。秋，七月，詔して**逖**に鎮西將軍を加える。**逖**は軍に在りて，將士と同じく甘苦し，己を約して施を務め，農桑を勸課し，新附を撫納し，疏賤なる者と雖も皆な結ぶに恩禮を以てす。河上の諸塢は，先に任子（人質）の後趙に在る者有れば，皆な兩屬（境界の民に両方に属するを認め間者とする）するを聽し，時に遊軍を遣わして偽りて之を抄する，其の未だ附かざるを明らかにす。塢主は皆な恩に感じ，後趙に異謀有れば，輒ち密かに以て告げ，是に由りて克獲する所多く，河より以南は，後趙に叛して晉に歸す多し。

■［石勒は祖逖の先祖の墓を修理］**逖**は兵を練り穀を積み，河北を取る之計を為す。後趙王の**勒**は之を患い，乃ち幽州に下して**逖**（范陽の人）の為に祖、父の墓を修め，塚を守る二家を置き，因りて**逖**に書を與え，使いを通じ及び互市せんと求む。**逖**は書を報じず，而して其の互市を聽し，利十倍を收める。**逖**の牙門の**童建**は新蔡内史の**周密**を殺し，後趙に降り，**勒**は之を斬り，首を**逖**に送り，曰く、

「叛臣逃吏は，吾之深く仇とす，將軍之惡は，猶ほ吾が惡也。」

逖は深く之を德とし，(5-318p) 是より後趙人の叛して**逖**に歸する者は，**逖**は皆な納れず，諸將に禁じて後趙之民を侵暴せ使めず，邊境之間は，稍休息を得る。

【王敦の叛意は明らかに】

■［周訪死して王敦は反乱へ］八月，辛未（３９日?），梁州刺史の**周訪**は卒す。**訪**は士衆を撫納するに善く，皆な為に死を致す。**王敦**が不臣之心有るを知り，私に常に切齒す。**敦**は是に由りて**訪**之世の終わるまで，未だ敢て逆を為さず。**敦**は從事中郎の**郭舒**を遣わして襄陽の軍を監ぜしめ，**帝**は湘州刺史の**甘卓**を以て梁州刺史と為し，沔北の諸軍事を督し，襄陽に鎮す。**舒**は既に還り，**帝**は征して右丞と為す。**敦**は留めて遣らず。

後趙［後趙は徐龕を支援］後趙王の**勒**は中山公の**虎**を遣わして步騎四萬を帥いて**徐龕**を擊ち，**龕**は妻子を送りて質と為し，降を乞い，**勒**は之を許す。**蔡豹**は卞城（山東省濟寧道泗水県、現・濟寧市泗水県卞橋鎮）に屯し，**石虎**は將に之を擊たんとし，**豹**は退きて下邳を守り，**徐龕**の敗る所と為る。**虎**は兵を引いて封丘に城きづき而して旋し，士族三百家を徙し襄國に崇仁裡（石勒が命名して衣冠の族をおく）を置き，公族大夫を置きて以て之を領せしむ。

後趙［石勒は胡を忌む］後趙王の**勒**は法を用いること甚だ嚴にして，「胡」を諱むこと尤も峻なり。宮殿は既に成り，初めて門戶之禁有り。醉胡有りて馬に乘り，止車門に突入す。**勒**は大いに怒り，宮門の小執法の馮翥を責める。**翥**は惶懼して諱を忘れ，對えて曰く、（石勒は元々胡人なりて、故に以て諱とする。その語を用いらせなかった）

「向に醉胡有り，馬に乘りて馳せて入り，甚だ之を呵御するも，而して與に語る可からず。」

勒は笑いて曰く、

「胡人は正に自ら與に言い難し。」

怒（続は恕）りて而して罪せず。

後趙［石勒の人材登用］**勒**は**張賓**をして選を領せ使め，初め五品を定め，後に更めて九品を定める。公卿及び州郡に命じて歲ごとに秀才、至孝、廉清、賢良、直言、武勇之士を各々一人を舉げしむ。

前涼西平公の**張茂**は兄の子の**駿**を立てて世子と為す。

■［敗戰の蔡豹は誅殺］**蔡豹**は既に敗れ，將に建康に詣りて罪に歸し，北中郎將の**王舒**は之を止める。**帝**は**豹**の退くを聞き，使いを遣わして之を收める。**舒**は夜兵を以て**豹**を圍み，**豹**は以て它の寇と為し，麾下を帥いて之を擊つ。詔有るを聞き，乃ち止む。**舒**は**豹**を執りて建康に送り，冬，十月，丙辰（２５日），之を斬る。

■［王敦と帝の嫌隙は深刻に］**王敦**は武陵内史の**向碩**を殺す。（史は王敦が残虐という例として挙げている）**帝**之始めて江東に鎮する也，**敦**は從弟の**導**と同心して翼戴し，**帝**も亦た心を推して之に任（続は托）じ，**敦**は征討を總べ（懐帝の永嘉五年に王敦を揚州刺史、都督征討諸軍事を加え、華軼・杜張・王機・杜會を討つ功），**導**は機政（導は尚書事を録す）を專らにし，群從の子弟は顯要に布列し，時の人は之が語を為して曰く、

「**王**と**馬**は，天下を共にす。」
後に**敦**は自ら功有り，且つ宗族は強盛なるを恃み，稍々益々驕恣なり，**帝**は畏れ而して之を惡む。乃ち**劉隗**、**刁協**等を引いて以て腹心と為し，稍々**王氏**之權を抑損し，**導**も亦た漸く疏外せ見る。中書郎の**孔愉**は陳ず、
「**導**は忠賢にして，佐命之勳有り，宜しく委任を加えるべし」
帝は**愉**を出して司徒の左長史と為す。(5-319p) **導**は能く真に任じ分を推し，澹如（さっぱりしている）也，有識は皆な其の善く興廢に處するを稱す。而して**敦**は益々不平を懷き，遂に嫌隙を構える。
■［譙王承と帝は王敦を警戒］初め，**敦**は吳興の**沈充**を辟して參軍と為し，**充**は同郡の**錢鳳**を**敦**に薦し，**敦**は以て鎧曹參軍と為す。二人は皆な巧諂凶狡にして，**敦**に異志有るを知り，陰かに之に贊成し，之が為に畫策す。**敦**は之を寵信し，勢いは內外を傾ける。**敦**は上疏して**導**の為に屈（屈折）を訟え，辭語は怨望す。**導**は封じて（王導は尚書なのでまず開封して見た）以て**敦**に還し，**敦**は復た遣わして之を奏す。左將軍の譙王の**承**は，忠厚にして志行有り，**帝**は之を親信す。夜，**承**を召し，**敦**の疏を以て之に示し，曰く、
「**王敦**は頃年之功を以て，位任は足れり矣。而して求める所已まず，言は此に至り，將に之を若何せん？」
承は曰く、
「**陛下**は早く之を裁せずして，以て今日に至る，**敦**は必ず患を為さん。」
■［王敦は譙王承の勇武を品定め］**劉隗**は**帝**の為に謀り，心腹（する者）を出し以て方面に鎮せしむ。會々**敦**は表して宣城內史の**沈充**を以て**甘卓**に代りて湘州刺史と為す，**帝**は**承**に謂って曰く、
「**王敦**の奸逆は已に著われ，**朕**は**惠皇**（惠帝の如く強臣に制限を受ける皇帝）と為ること，其の勢いは遠からず。湘州は上流之勢いに據り，三州之會（荊州・交州・廣州）を控え，叔父（譙王承）を以て之に居らしめんと欲しすは，何如や？」
承は曰く：
「臣は詔命を奉承し，惟だ力を是れ視る，何をか敢えて辭する有らん！然れども湘州は蜀寇（杜穉の乱）之餘を經て，民物は凋弊し，若し部に之くを得れば，三年に及ぶ比おい，乃ち戎（兵）に即かしむ可し。苟くも未だ此に及ばざれば，復た身を灰にすると雖も，亦た益無し也。」
十二月，詔して曰く、
「晉室は基いを開き，方鎮之任は，親賢並びて用い，其れ譙王の**承**を以て湘州刺史と為す。」
長沙の**鄧騫**は之を聞き，歎じて曰く、
「湘州之禍いは，其の斯に在らん乎！」
承は行きて武昌に至り，**敦**は之と宴し，**承**に謂って曰く、
「**大王**は雅素（平素）佳士なり，恐らくは將帥の才に非ざる也。」
承は曰く、
「公は未だ知られざる耳，鉛刀も豈に一割之用無からんや（後漢の班超の言）！」
敦は**錢鳳**に謂って曰く、
「彼は懼れるを知らず而して壯語を學ぶ，其の武せざるを知るに足る，能く為す無き也。」
乃ち鎮に之くを聽す。時に湘土は荒殘し，公私は困弊し，**承**は躬ら自ら儉約し，心を傾けて綏撫し，甚だ能名有り。
高句麗高句麗は遼東を寇し，**慕容仁**は與に戰い，大いに之を破る。是より敢えて**仁**の境を犯す。

中宗元皇帝中太興四年（辛巳，３２１年）

■春，二月，**徐龕**は復た降を請う。

前涼［張茂の土木工事批判］**張茂**は靈鈞台を築く，基いの高さは九仞なり。武陵（続はいうに武威ではと）の**閻曾**は夜府門を叩いて呼んで曰く、

「**武公**（張軌の字）は我を遣わして來たり，言わしむ『何故に民を勞して台を築くや！』と」

有司は以て妖と為し，之を殺さんと請う。(5-320p) **茂**は曰く、

「吾は信に民を勞せり。**曾**は先君之命と稱して以て我を規す，何ぞ妖と謂う呼！」

乃ち之が為に役を罷める。

■三月，癸亥（４日），日中に黑子（陰が陽を侵すの象）有り。著作佐郎の河東の**郭璞**は**帝**の刑を用いるに差の過ぎるを以て，上疏し，以て為す、

「陰陽は錯繆し，皆な繁刑の致す所。赦は數々するを欲せず，然るに**子產**（鄭の人、刑書を鋳ることは左傳に見える）は刑書を鑄るは政之善なるに非ざるを知れども，作らざるを得ざる者は，須ちて以て弊を救うが故也。今之宜しく赦すべきは，理も亦た之の如し。」

後趙［石虎は幽州を攻めて段文鴦を捕虜］後趙の中山公の**虎**は幽州刺史の**段匹磾**を厭次に攻め，**孔萇**は其の統内の諸城を攻め，悉く之を抜く。**段文鴦**は**匹磾**に言って曰く、

「我は勇を以て聞こえ，故に民の倚望する所と為る。今民の掠め被れるを視て而して救わず，是れ怯也。民は望む所を失なえば，誰か復た我が為に死を致さんや！」

遂に壯士數十騎を帥いて出でて戰い，後趙の兵を殺すこと甚だ衆なり。(段匹磾も歩兵で続き奮戦するも匹磾は撤退し、文鴦の)馬は乏伏（疲れ倒れる）して起つ能わず。**虎**は之を呼びて曰く、

「兄（段疾陸眷と石虎は義兄弟のちぎり）と我と俱に夷狄なり，久しく兄と同じく一家を為さんと欲す。今天は願いを違えず，此に於いて相い見るを得る，何為れぞ復た戰かわん！請う仗を釋かん。」

文鴦は罵りて曰く、

「汝は寇賊を為し，死に當たること日久しく，吾が兄（段疾陸眷）は吾が策を用いず（78 巻懐帝永嘉六年、312 年に段疾陸眷は石勒と講和したが、段文鴦はこれに頑なに反対した），故に汝をして此に至るを得令む。我は寧ろ斗いて死なん，汝の屈に為らず！」

遂に下馬して苦戰し，槊（長さ八尺）は折れ，刀を執りて戰いて已まず，辰（午前八時頃）より申（午後四時頃）に至る。後趙の兵は四面に馬羅披（馬の障泥）を解き自ら鄴ぎ，前みて**文鴦**を執る。**文鴦**は力竭きて執え被れ，城内は氣を奪われる。

後趙［段匹磾は後趙の捕虜、後に誅殺］**匹磾**は單騎にして朝に歸せんと欲し，**邵續**之弟の樂安内史の**洎**は兵を勒して聽さず。**洎**は復た台使（晉朝の使い）の**王英**を執りて**虎**に送らんと欲し，**匹磾**は色を正して之を責めて曰く、

「卿は兄之志に遵う能わず，吾に逼りて朝に歸すを得ず，亦た已に甚し矣！復た**天子**の使者を執らんと欲するや？我は夷狄と雖も，未だ聞かざる所也！」

洎は兄の子の**緝**、**竺**等と櫬を輿いて出で降る。**匹磾**は**虎**を見て曰く、

「我は晉の恩を受け，志は汝を滅すに在り，不幸にして此に至る，汝に敬を為す能わざる也。」

後趙王の**勒**及び**虎**は素より**匹磾**と結びて兄弟と為る，**虎**は即ち起ちて之を拜す。**勒**は**匹磾**を以て冠軍將軍と為し，**文鴦**を左中郎將と為し，諸々の流民三萬餘戶を散じ，其の本業を復さしめ，守宰を置きて以て

之を撫す。是に於いて幽、冀、幷の三州は皆な後趙に入る。**匹磾**は**勒**に禮を為さず，常に朝服を著け，晉の節を持つ。之久しく，**文鴦**、**邵續**と皆な後趙の殺す所と為る。(1年余り後、或る者段匹磾を主に推して後趙離反画策して発覚し、段匹磾は誅殺、段文鴦毒殺。)

■五月，庚申（２日），詔して中州の良民の遭難して揚州諸郡の僮客と為る者を免じ，以て征役を備える。尚書令の**刁協**之謀也，是に由り衆は益々之を怨む。

前趙終南山（長安の南山）は崩れる。**(5-321p)**

■［王敦に備えて戴淵・劉隗を配置］秋，七月，甲戌（１７日），尚書僕射の**戴淵**を以て征西將軍、都督司、兗、豫、並、雍、冀六州諸軍事、司州刺史と為し，合肥（淮南郡の県、安徽省安慶道合肥県、現・合肥市瑶海区）に鎮ぜしむ。丹楊尹の**劉隗**を鎮北將軍、都督青、徐、幽、平四州諸軍事、青州刺史と為し，淮陰（江蘇省淮揚道淮陰県の南、現・淮安市淮陰区）に鎮ぜしむ。皆な節を假して兵を領せしめ，名は胡を討つと為し，實は**王敦**に備える也。

■［王敦は劉隗の懐柔を図れず］**隗**は外に在ると雖も，而して朝廷の機事，士大夫を進退するは，**帝**は皆な之と與に密謀す。**敦**は**隗**に書を遺りて曰く、

「頃（ちかごろ）**聖上**の足下を顧眄するを承り，今大賊は未だ滅びず，中原は鼎のように沸き，足下及び**周生**（周顗の字）之徒と力を王室に翼（あわ）せ，共に海內を靜めんと欲す。若し其の泰（通じる）なる也，則ち帝祚は是に於いて隆んなり。若し其の否（塞がる）なる也，則ち天下は永く望み無からん矣。」

隗は答えて曰く、

「『魚は江湖に相い忘れ，人は道術に相い忘れる。』(莊子の大宗師の言)『股肱之力を竭くし，之を效すに忠貞を以てす』は，吾之志也。」

敦は書を得て，甚だ怒る。

■［王導忌避を周嵩は諫める］壬午（２５日），驃騎將軍の**王導**を以て侍中、司空と為し、節を假し、尚書を錄し、中書監を領せしむ。**帝**は**敦**の故を以て，並せて**導**を疏忌（疎かにして忌む）す。御史中丞の**周嵩**は上疏し，以て為す、

「**導**は忠素にして誠を竭くし，大業を輔成す。宜しく孤臣之言を聽き，疑似之說に惑い，舊德を放逐し，佞を以て賢に伍し，既往之恩を虧き，將來之患を招くべからず。」

帝は頗る感寤し，**導**は是に由りて全くすを得たり。

後趙■八月，常山（常山郡上曲陽県、直隷省保定道曲陽県の西北、現・石家莊市正定県）は崩れる。

■［豫州刺史の祖逖の死］豫州刺史の**祖逖**は，**戴淵**（廣陵の人）が吳の士にして，才望有ると雖も，弘致遠識無く、且つ己は荊棘を翦り、河南の地を収め，而して**淵**は雍容として，一旦來たりて之を統べるを以て，意は甚だ怏怏とす。又た**王敦**の**劉**、**刁**と隙を構え，將に內難有らんと聞き，大功の遂げざるを知り，感激して病いを發す。九月，壬寅（４５日?），雍丘に卒す。豫州の士女は父母を喪うの若く，譙、梁の間は皆な為（ため）に祠を立てる。**王敦**は久しく異志を懷き，**逖**の卒するを聞き，益々憚る所無し。

■［祖約は士卒が従わず］冬，十月，壬午（４７日?），**逖**の弟の**約**を以て平西將軍、豫州刺史と為し，**逖**之衆を領さしむ。**約**は綏御之才無く，士卒の附く所と為らず。

■［李矩は祖約を見限って郷里に帰る］初め，范陽の**李矩**は亂を避けて**逖**に依り，**約**の志趣は異常なるを見，親しい所に謂って曰く、

「吾は北方の鼎沸を以て，故に遠く來たりて此に就き，宗族を全くせんと冀う。今**約**の為す所を觀るに，測る可からざる之志有り。吾は名を姻親に托し，當に早く自ら計を為し，復た身を不義に陷とす事無から

ん也，爾が曹（ともがら）は目前之利を以て而して久長之策を忘れる可からず。」
乃ち子弟十餘人を帥いて間行して郷里に歸る。（後に慕容皝に仕える）(5-321p)

■十一月，皇孫の**衍**は生まれる。

後趙［石勒は旧知の李陽を優遇］後趙王の**勒**は悉く武郷の耆舊を召して襄國に詣らしめ，之と共に坐して歡飲す。初め，**勒**の微（賤なる）時，**李陽**と鄰居し，數々溫麻池（麻を浸して柔らかにする池）を爭いて相い毆（う）ち，**陽**は是に由り獨り敢えて來たらず。**勒**は曰く、

「**陽**は，壯士也。溫麻は，布衣之恨みなり。孤は方に天下を兼ね容る，豈に匹夫を仇とせん乎！」

遽に召して與に飲み，**陽**の臂を引いて曰く、

「孤は往日卿の老拳に厭き，卿も亦た孤の毒手に飽く。」

因りて參軍都尉に拜す。武郷（漢の高祖、光武帝の故事に倣う）を以て豐、沛に比し，之を復すること三世。

後趙［石勒の倹約令］**勒**は民が始めて業に復し，資儲は未だ豐かならずを以て，是に於いて重く制し釀を禁じ，郊祀の宗廟に，皆な醴酒（一夜にして醸す酒）を用いる，之を行うこと數年，復た醸す者無し。

▲［東晋は慕容廆を平州牧遼東公］十二月，**慕容廆**を以て都督幽、平二州、東夷諸軍事、車騎將軍、平州牧と為し，遼東公に封じ，單于は故の如く，謁者を遣わして即きて印綬を授け，製を承けて官司守宰を置くを聽す。**廆**は是に於いて僚屬を備置し，**裴嶷**、**游邃**を以て長史と為し，**裴開**を司馬と為し，**韓壽**を別駕と為し，**陽耽**を軍諮祭酒と為し，**崔燾**を主簿と為し，**黄泓**、**鄭林**は軍事に參ぜしむ。**廆**は子の**皝**を立てて世子と為す。東横（学舎、晉書載記には東庠）を作り，平原の**劉贊**を以て祭酒と為し，**皝**をして諸生と同じく業を受け使め，**廆**は暇を得れば，亦た親ら臨みて之を聽く。**皝**は雄毅にして權略多く，經術を喜（この）み，國人は之を稱す。**廆**は**慕容翰**を徙して遼東に鎮せしめ，**慕容仁**を平郭（遼東郡、奉天省遼瀋道蓋平県、現・営口市蓋州市）に鎮せしむ。**翰**は民夷を撫安し，甚だ威惠有り。**仁**も亦た之に次ぐ。

拓跋［拓跋の惟氏は傑物、什翼犍は生き延びる］**拓跋猗笟**（竹冠でない字）の妻の**惟氏**は，代王の**鬱律**（立つ事89巻にあり）之強きを忌み，其の子に利あらざるを恐れ，乃ち**鬱律**を殺して而して其の子［人辱］を立て，大人の死者は數十人。**鬱律**之子の**什翼犍**は，幼くして襁褓に在り，其の母の**王氏**は褥中に匿し，之を祝して曰く、

「天は苟くも汝を存せば，則ち啼く勿かれ。」

之久しく，啼かず，乃ち免かるるを得る。**惟氏**は國政を專制し，遣使して後趙に聘し，後趙の人は之を謂うに「女國の使い」と。

令和３年５月 12 日　翻訳開始　　9843 文字
令和３年５月 16 日　翻訳終了　　20032 文字　現代地名・年表対応
令和３年 11 月 20 日　書下し終了　20533 文字